

[ラルフ・W・ハリス]「聖霊」

VIII. 聖霊のバプテスマを受ける方法

ヨハネによる福音書 7:37-39

ルカによる福音書 11:9-13

今や私たちは、聖霊に関するこれらの学びの非常に実際的な面にはいつてきた。聖霊を人格として、友として知ることはすばらしいことである。教会また個人の生活に対する聖霊の働きを知ることは励ましとなる。聖霊が紀元1世紀になされたように、この時代において男女の生活の中に注がれる、ということを知るのはすばらしいことである。

しかし、私たちはそれ以上のことを知らなければならない。

私たちは学んできたことがらの実際性にはいなければならない。



聖霊のバプテスマは単にそれについて語られるだけのものではない。**それは経験されるべきものである。**それは神が紀元1世紀の信者たちだけのために備えられた経験ではない。使徒行伝に述べられているその同じ経験を、世界の数限りないクリスチャンが受けてきたことを、証しすることが出来るのである。

どのようにして受けることが出来るか

まず、その人の心を備えるための第一のことは、聖霊のバプテスマは神からの賜物であり、神の御子によって与えられるものであるという事実である。

イエスは聖霊のバプテスマの与え主である。このことの理解は、人々が聖霊に満たされようとしてとる誤った方法の多くを取り去る。その経験は獲得するものではない。それはわざや努力で与えられるものではない。それは人間によって与えられるものでもない。

求めるものはイエスのみを仰がなければならない。方法に関する限り、聖霊のバプテスマを受けるための厳密な一定の方式はない。

その人の姿勢は、聖霊のバプテスマを受けるのに何の関係もない。ある人は床の上に伏している時に受けるかも知れないが、そのような状態は必ずしも必要ではない。ペンテコステの日には弟子たちは屋上の間に座っていた、と聖書に記している。ある人はひざまづいている時に、ある人は立ちながら受けている。それは身体の姿勢ではなく、心の問題なのである。

聖霊のバプテスマを受けるのに場所は要因ではないが、もちろん、大多数の人たちは、教会の祈りの座で受けてきた。ある人は家で仕事をしている時、ある人は牛舎でミルクをしぼっている時、ほかの人は畑を耕している時に聖霊を受けた。もし、聖霊に満たされたいという渴きを持ち、つねに神を求めつづけるなら、その人はどこでも聖霊に満たされるであろう。

聖霊のバプテスマを受けるのに、時間は要因ではない。ある人々は朝、聖霊に満たされ（ペンテコステの日、弟子たちはそうであった）、またある人たちは夜、満たされた。ある婦人が熱心に聖霊を求めていた。ある夜、彼女は自分がペンテコステの日屋上の間にいる夢を見た。彼女はこれこそ聖霊に満たされるのに理想的な時であり、場所であると考えつつ、手をあげて一緒に賛美し始めた（まだ夢の中であった）。そして、目覚めて異言を語り出した。これははじめてのことであった。

求める者は、待望会を待つ必要はない。その人はいつでも満たされることが出来るのである。

神は何を期待されるのか

聖霊のバプテスマを受けるのに、信者は何もしないとはいえ、求める者が聖霊に満たされるためには、ある要求が満たされなければならない。

これは非常にすばらしい賜物だから、ふさわしくない人にむだには与えられないものである。多分、まったく聖霊の経験にあずかり得ない理由は、求める者が十分に備えられておらず、神の最善のものを求めていないという事実によるものである。

求める者はきよい心を持たねばならない。

聖霊のバプテスマは、新生した者、キリストの血によって、きよめられた者のためにある。聖霊を求めるのに最もよい時は、救われた直後であるというのはこの理由によるものである。救われてから、ある時がたっている者は、心のきよめを明確なものとしなければならない。他のクリスチャンに対するい思いや仕打ち、批判的態度、すべての種類の罪は、聖霊が注がれるのを妨げる。聖霊は聖なる霊であることを覚えなければならない。

イエスは弟子たちに、彼らが上から力を着せられるまで「待ち望む」ように語った。
「待ち望む」ということは、ペンテコステ派の人々に最も誤解されている言葉である。
実際、聖霊はすでに与えられているのであるから、求める者がいったん、受けるための神の条件を満たすならば、待ち望む必要はないのである。

待ち望むことは何かの行為よりもむしろ、ほとんどの場合、心、意志、思いなどの態度として述べられている。待望会の祈りにおいて、何分も何時間も待ち望むことに過ごしてはならない。日夜、つねに心を開き、求める態度を持ちつづけるがよい。この態度は日中の仕事にたずさわっている間も保つことが出来るのである。

聖霊に満たされようと願う人はまた、献げられた、従順な心を持たなければならない。

聖霊のバプテスマは喜ばしい霊的祝福をもたらすけれども、根本的には、それはある種の奉仕のために信者を備えるために注がれるのである。聖霊に満たされたいと求める時、信者は神が語りかけることに対して心を開いていなければならない。

この待望と献身の時は倦怠（けんたい）の時であってはならないし、あるべきではない。

実にそれはクリスチャン生活の中で最も喜ばしく、楽しい時なのである。

もちろん、信仰こそ、聖霊に満たされる偉大な要因なのである。

しかし、その信仰は、ぼんやりしたものであってはならない。効果的であるためには、神の言葉に立つことである。

求める者は聖霊に関する、またキリストの約束に関する聖句を読み、学び、暗唱し、黙想することの中に助けを見いだすであろう。神はこれらの聖句のいくつかを求める者に対して、特に強く示すであろう。

それぞれの聖句が、それぞれの人を助けるであろう。ある人は、求める者に聖霊を与えるというのは神の約束である、と述べているルカ 11:13 が助けとなるであろうし、ほかの人にとっては使徒行伝 2:39 から、あなた方への約束という言葉を取り、それに助けを見いだすであろう。

賛美は聖霊のバプテスマを受けるための大切な要素である。

ほとんどの人々はそれが、この経験への入口であることを見いだしている。ある面では賛美は信仰の一部である。なぜなら、もしその人が聖霊を受けようとしているなら、その人は喜ぶからである。賛美はキリストの臨在と、彼が与え主であることを一層、明確にする

のである。

最後に、ゆだねるということである。

水のバプテスマにおいては、受洗者はひとたび、司式者のもとに行くなら、自分を司式者の働きにまかせるのである。聖霊のバプテスマを受けようとする者は、偉大な”与え主”の近くへ、近くへと行かなければならない。それから、主を間近に感じたなら、肉体も、魂も、霊も完全にゆだねなければならない。そのあとは与え主がするであろう。

求める者をいかに助けることが出来るか

新約聖書において、信者が聖霊の満たしを受けるのを助けるために、神が人々を用いたことは明らかである。ペテロとヨハネとはサマリヤ人たちに按手し、彼らは聖霊を受けた（使徒 8:17）。パウロはエペソ人たちに按手し、彼らも聖霊を受けた（使徒 19:6）。しかし、私たちがつねに記憶しなければならないことは、キリストが与え主であり、人ではないということである。

信者が聖霊に満たされるのを見たいという助祷者の熱心な願いが、実際にはかえって求める者の妨げとなっているかも知れない。

信者はまず、方法の概要について教えられるべきであるが、そのあとは、その人と主との間の問題である。その人の注意をそらせ、主への思いと賛美を混乱させるものは、どんなものでも妨げとなる。助祷者が、言うことやすることを絶えず教えるのは、ただ、求める者を妨げるのみである。「開けごま」式の、ある言葉などを繰り返させるのは、ただ、彼をわき道へそらせてしまうであろう。最善で、最も確実な方法は賛美と礼拝のうちに、救い主に近づくことであり、イエスをほめたたえることに全精力をつくすことである。あとは聖霊が引き受けてくださるであろう。

多分、私たちが求める者に対して、助けることの出来る最大のことは、信仰と礼拝の環境をつくってやることである。しかし、私たちが注意しなければならないことは、私たちの賛美が心からのものであり、求める者を励ますために口先だけで言っているのではないということである。聖霊に満たされた信者がキリストを礼拝する時、彼らはキリストがそこに来たいと願うような環境を備えるのである。このような環境こそ、求める者が、それを通して迫り、聖霊に満たされることを容易にするものである。